

KSKP**Threshold**

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニューズレター Vol.49

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

女性の居場所としての DARC が動き始めました

みなさま如何お過ごしでしょうか。次ページでも書きますが病気の方は順調に回復し自分のケアを優先しながらも奮闘する日々であります。

さて、そんなこともありながら姫路で準備してきた女性の居場所が動き始めました。以前から姫路での活動はずっと続けてきましたが、新しい場所での活動というのはいろいろなしなみや障害も多く、なかなかうまく行かないこともありましたが、亡くなった近藤さんから6年前に電話で「おい、姫路はお前のうちから近いだろう。ハワイのNAメンバーが家を使ってくれといってるからお前見に行って、そこでも活動をしなさい」と言われ最初は「また近藤さん、よくわからない話をもらってきちゃったな・・・」と思いましたが、そこからいろいろな人の思いがこもった居場所作りが始まりました。穏やかにのんびりと時間を忘れて回復を共に歩ける場所とできればいいなという思いから入所者の仲間もつながりみんなで支えながら活動が始まりました。「安全で安心できる居場所」となるように場所の非公開や連絡などは神戸ダルクで対応していきますが今後も長い目で見守ってください。

神戸と同じく地域の人に暖かく守ってもらえる居場所にしていきます。

動き始めたばかりで、さまざまなものが不足しています。制度も使えないのでとても生活を工夫して今日一日を過ごしています。心苦しいですがみなさまからの支援をいただくことで彼女たちが日々安心して過ごすことができます。どうかよろしく願いいたします。

一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 ←郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&3 TEL078-764-6988(神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス&お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援 B 型(10 月より)事業所 ぱっくや〜ど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター 連絡は神戸ダルクへ

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

In Times of Illness 病気の時に

代表理事 梅田靖規

多くの方は知っていると思いますが4月から入院生活をしていました。仕事に追われながらのストレスや食事、睡眠不足などから「頑張ればなんとかなる！」で生きてきた私は血糖値がどんな薬や手段を増やしても全く変わらず、目も見えない、発疹などさまざまな部分で免疫力が下がり、メンタルもあまり良くありませんでした。それと同時に健康診断と自分で検査をお願いした腫瘍マーカーに全てひっきりなしに、検査したところあらゆる部位で影が見つかりました。病院での検査では「脾臓が全く動いていけませんので1型糖尿病と同じ状態で戻りません。このままだと人工透析にもなると思います。また肺に見える影がかなり怪しいので早急に対応してください。仕事なんて言ってる場合じゃありません！」と主治医も怒っており緊急入院になりました。当初の私は不安よりも絶望でした「こんなに頑張ってきたのに、なんだよこれは・・・神様なんていないだろう・・・」そう思えたし、大抵の問題は12ステップによって「これは与えられたメッセージで私が気が付かないといけない試練なんだ」と思ってきましたが、今回ばかりは「死」というものを目の当たりにすることで、「全くプログラムなんか通用しない」という心境で、病院のベッドの上では、全然関係ない仲間にも、自分を心配して親身に思ってくれる仲間に対しても「なんでおれだけ」という気持ちから、周りのすべての人に対しても、心のどこかで怒りや恨み節が再燃していました。心の中はどうにもならない孤独感に支配されていました。仲間が飛行機で心配して神戸に来てくれたにも関わらず「会える心境じゃない」と断りました

そんな時ですね。神戸ダルクの仲間やスタッフが「なんとか乗り切るので元気に戻ってきてください」とNAのバースデーに書いてくれるような色紙の寄せ書きを病院に届けてくれました。開く時も相当追い込まれていた僕は「そんなものをもらったとて」という気持ちでしたが開いて読んでいて、みんなの顔を思い浮かべていたら何か目が覚めるような音がしたんですね「パチン」と。

僕は2007年11月8日から薬物がとまり始めて、ちょうどその日も再発して茨城ダルクに戻った時なんですね、仲間がちょっとした寄せ書きを書いていてくれました。その日から「回復できるかも？」という可能性を感じたし、「失った地元の仲間は戻ってこないかもしれないけど、ダルクの仲間は俺の仲間だな」と認識できた日でした。あの時の仲間が翌朝かけてくれたメッセージをよく覚えています。岡山のまっちゃんは「うめちゃん戻ってきたー」って涙目で隣に座ってくれました。イタルは「うめちゃん、俺たちはもう社会には戻れねーぜ、一生ダルクにしようや、俺も付き合うからよ！」と言ってくれました。さまざまなことを走馬灯のように思い出していくんですね。ジュンヤが亡くなる直前のJCCAで「お前はお前にしかできないメッセージがあるんだから頑張れよ」って言葉。ポールの「諦めなかったら絶対にこの病気はあなたの人生で一番大切なものになると私が約束する」って言葉。その数日前にずっと関わってきた仲間が刑務所の中で自死してしまいそのお母さんと何時間も話した言葉。腐れ縁の仲間が癌が見つかって結構厳しい状況でも最後まで諦めませんって言うって仲間の言葉。これさ、僕の薬が止まり始めた時と全く同じ心境と行動なんですよ。

僕ね、厳しい主治医に「先生、もう俺ダメなんですか？なんでもするから助かりませんか？」と弱音を吐きました。厳しい先生でしたが、その日から「一緒に頑張りましょう。私もできることはベストプラクティスでやります」と毎日病室で優しく僕の話聞いてくれました。先生に言うことを信じてその通りの生活をしました。

そんな中で奇跡が起きていくんですね。私がダルクに繋がって薬が止まったのもあの時の自分を知っている人からしたら奇跡なんです。でもその奇跡の裏側にはそんなさまざまな葛藤と応援と意味があるんです。

まず、脾臓が動き始めてる！という先生からの一報があり、栄養士さんが来てくれていても「どうせ無駄。そんな理想論のような食生活できない」と門前払いしていましたが何度も何度も情報を持ってきてくれました。僕も質問をするようになり、社会に戻ってその生活を維持する方法と出張などの時どうすればいいか？などを毎日色々調べて教えてくれました。総合病院のどれだけの科を回ったかわかりません。皮膚科も眼科も、すべて数値が改善されていく中で良くなっていきました。そして退院してから、生活習慣を取り戻すために、ダルクのスタッフとも相談し、食生活や運動などもバランスよくこなして生きています。時に脱線しますが、習慣というのはありがたいですね。ホメオスタシスのようにバランスをとってくれています。

私は心理士になるための大学院で、キューブラー・ロスとV.E.フランクルを専攻していたこともあり、12ステップに通じるものがあり、自分の精神状態が全く自分が大切な人を失った時と同じ心境だと思ったのと同時に、依存症の回復も全く同じだと思いました。ダルクで悪態をつき人のせいにして嘘をついてという生き方をしている人も、必ず心の中には大切に守られているいつか輝き出す可能性があり、経験やきっかけが必ず自分を助けてくれる時が来ます。

また、私たちの多く、また周りの人も、薬物が止まることが目的と考えます。回復の中でそうではないことに私たちは気がついていきます。ですがどうしようもない。自分のパーソナリティーの問題は薬物よりも厄介です。でもそれを気づかせてくれるのもいつも仲間です。

また病院で一つの英語の小冊子を夢中になって読みました。「In Times of Illness」病気の時にという、NAの昔からある小冊子が改定されていました。「クリーンを生きる」という問題が書かれた書籍も9月に翻訳されて販売されますが、私たちは回復して薬がとまっていく中で、どんなに頑張っている、仲間の笑顔に囲まれていても、さまざまな問題に直面していきます。老い、別れ、病気、心の病気、自分の最期、仕事、再発、再燃など。

私は今回一つだけ大きなことを学んだ気がします。回復の中で人はさまざまな耐え難い問題に出会っていきます。そんな時に仲間の声も届かなくなるような問題もあるでしょう。「こんな時こそミーティング」それができればいいですが、それができないくらいの心境というものも理解することができました。パートナーや家族なども病気になったりします。そのことで自分の人生も混乱と不安に支配されることもあります。でも決してどんな時でも薬物や死が自分の問題を解決してくれるかもという選択を選ばないことです。その方法をダルクで手に入れる必要があります。

その後、元気になってから苦勞をかけたり、迷惑をかけた仲間に自分の回復の姿で恩返しをすればそれでいいと思います。ダルクに繋がったばかりの仲間も、クリーンが18年近くになる私も、全く同じです。そこでまた12ステップの道を歩けばいいと思います。

私の経験は私にしか運べないメッセージであり、それが僕に与えられたギフトだと思います。ここでは書きませんが、思っていた以上に多くの仲間が真剣に僕にメールをくれたりしました。たくさんの動画などを送ってくれました。病院の中で、僕はドクターには治療できない重たい病気にかかっていることも気がつきました。それはわたしのアディクションです。それを治せるのは私であり仲間のメッセージだと気がつきました。たまたま再会したドクターには「無茶苦茶心配してた。よかったよかった。またこの経験をさ、うめちゃんのいつものアイデアでさ、プラスに変えちゃおうよ。応援するし」って嬉しそうに声をかけてもらったり、人それぞれのやり方で私を支えてくれています。

多くの方からの声援には自分が回復に向かい出してから感謝の気持ちと回復への言霊のように自分が倒れないように支えてくれるたくさんの手のように勇氣と活力をいただきました。本当にありがとうございます。

アメリカからもクリーン40年の仲間が僕に会いに来てくれました。「なんでそこまで」と言いましたが彼は言いました。

「私はあなたに人生を一度たすけてもらった。感謝してる。今日本に来なかったらいつくるんだ？ Mt.Fijiか？ Sumoか？

私はあなたに会うことで元氣を与えてそして元氣をもらって帰ることが回復の人生の全てだよ」と言ってくれました。

私の病気は完全によくなったわけではありませんが元氣になりました。

仲間にはあせらずゆっくりといっても全くいうことを聞きません。というより、僕が一番聞きません。ですが、私は私にしかできないメッセージを私なりの方法で伝えていくことで生かされていることを今日は感じています。

今日の朝の血糖値は93でした。



自分の変化

おじい

私はダルクに来て、約 7 ヶ月が過ぎました。正直言って、過ぎてみるとあつと言う間の 7 ヶ月でした。最初はいろいろな規則、そして毎日のプログラム、ミーティングや畑作業そして毎日休みなく遠い会場へ出向いて行く NA のミーティングへの参加で寮に帰って来るのがいつも夜の 9 時から 10 時で確かに疲れますが刑務所とは違い帰ってからの入浴の気持ちの良い事、本当に一日の疲れをいやしてくれるとはこの事をいうのだろーと思いました。正直言って、今迄辛いときや淋しいときには必ず覚せい剤をほしいと思って来た私でしたが何故かその様な気持ちにはなれず、一緒に頑張る仲間のうしろ姿を見て逆に私も他の仲間に負けるものかと元気を貰います。

私は今 79 歳になる高齢であり、正直仲間について行くのがやっとです。へこたれそうになるときも多々ありますが、そんなときは仲間がやさしく労り、支えてくれます。そのときのかけてくれる言葉ややさしさが、昔子供の頃に味わった家族の様な気がして嬉しさのあまり涙を流すこともあります。そして毎日 NA のミーティングに参加させてもらい、同じ依存症で苦しんでいる多くの仲間が偽りのない正直な腹の内を語ってくれる話を聞き、いかに自分がおろかだったかを悟りました。自分も今では日々のミーティングで嫌なことや嬉しいこと淋しく思うことがあれば進んでミーティングで話をさせてもらうことでスッキリさせてもらっています。あれ程嫌やった畑作業一つを取っても、種を植え収穫して仲間たち全員でありがとうと野菜に言葉をかける、今迄この様な気持ちになったことなど一度もありませんでした。私も少しずつではあるがここに繋がったお陰でおだやかになったのだなあと思います。今は心底この中間施設につながったことを感謝しています。最近では違った道を歩き出しているのだと感じる様にも思います。これでやっと刑務所とは縁が切れそうに思います。しかし安心が出来ないのが依存症であると理解して、慌てずゆっくりと着実に回復へ進んで行きたいと思います。そしてあと長くない自分の人生ぐらいまっとうして生きようと思います。

エイサーについて

サンちゃん

エイサーって聞いてまず思ったのは、ウゲー——ッ！何それ「The ダルク」じゃん。自分はやりたくないなあっていう拒否感でした。何でもそうかも知れませんが、やるまではみんなそういう風に、特に僕らアディクト(依存症の人)は思うのかもしれない。

ですが、この文を書いている 6 月 1 日の「今日だけ」の文献を見ると、こんなことが書かれてありました。「からだを動かせば気持ちもついてくる」というものです。これ、正に僕の実感を言い得ている内容でした。今でもからだを動かすまでは、面倒臭いよお～～って思っていますが、いざからだを動かしてみると、楽しいものなんですよ。

滝落としにミルクムナリ、それから自分の好きなバンド HY の「時を越え」で練習しているのですが、アーイーアーイーアーなんて掛け声も発して、汗をかいています。仲間とお互いのフリを見ながら、手が伸びてないとか、かっこよく回ろうとか、この手はピシッとまっすぐ！とか、こだわって声を掛け合ってやっています。

僕も仲間もやっと形になり始めたかなってぐらいでまだまだなんですが、やる度に次のパートに進んだり、前やってたところは、もう体に入ったりして、後から来た仲間にアドバイスとかもするんですが、それを踏まえて仲間の動きが変わっていきると、すごく嬉しいです「先行く仲間」から教えてもらいましたが、そうして自分が成長するだけでなく『手渡す』ことで『回復』もしていく。だからエイサーっていうプログラムは全国のダルクで採用されているんだって聞いて、すごく納得しました。自分一人じゃなくて仲間と共に、みんなで(依存症)アディクションからの回復が出来るんだなと思うと、余計に一生懸命やろうという気にもなります。

ダルクに来て 3 ヶ月半、僕は孤独に独りで立ち続けるような回復じゃなくて、みんなで助け合いたいなって思うようになりました。エイサー終わって堂々と爽快に笑い合う、マジでダルク楽しいです。



体験談

テツ

私は大阪刑務所から約1ヶ月と20日仮釈放をもらい、この神戸ダルクにつながりました。神戸ダルクに1ヶ月と20日くらい生活をして、そのプログラムに従いやる訳ですが、畑やエイサー、ミーティングなどをそれぞれ役割を持って全て感じたことは、一日一日が本当に疲れて、クタクタになります。しかし本当にしんどい部分があり、体調不良をしてしまうこともありました。

私はホヤホヤの1ヶ月と20日くらい、いま生活をしてもらっています。神戸ダルクは本当プログラムが多くあって大変だなと思うこともありますが。仲間から回復のプログラムがあるんだと言われて、プログラムに意味があるんだなと実感して日々の生活にプログラムにしたがい積極的にやるようにしています。

まず私の過去から言うと、私は覚せい剤で4度目の逮捕となり、刑事施設に入れられ、懲役1年9月もらい懲役生活がスタートされ、神戸ダルクの手紙が来てパンフレットをもらいました。それで私は神戸ダルクを知り、この懲役生活の中で自分に考えさせられました。自分はとても今回これで最後にして病気からなんとかやめよう。でもいつも、やめられない自分がいました。施設長から、手紙のやり取りをして、私が苦しんでいる私に手をさしのべこの神戸ダルクにつながりました。

入所したとき、仲間のあいさつや生活のやり方などを教えてもらい、自分に仲間として認められていると感じ、とても良い人間生活が送られています。私はこのプログラムのミーティングで、第1ステップのことに對して「アディクションの中で無力でどうにもならなくなったことを認めた」この原理が何よりアディクトとは私たちなのだと考えさせられました。ダルクは本当に大変なプログラムもあれば良いプログラムもあり、それにしながって生きて回復につながるというのがいまの自分です。

色々文句も出るけど、1ヶ月20日いま薬がとまっています。回復の道に何よりこの大切が本当に大事だなと実感して、これからも今でも自分に向き合って充実に生活を送っています。私「アディクト」は無力だからここににいるということを忘れてはならない、それを自分に思い続けなければならないことも自分にとって、それも大事なんだなと思いました。ハイヤーパワーの勇氣をもって神にお願いして祈ろうと思いました。



自分の中の変化について感じたこと

けいちゃん

僕がこちらにお世話になってから、1ヶ月半が経とうとしています。此処では様々なプログラムが用意されていて、毎日なすべきことに事欠かないといった感じです。暇で時間が有り余ってしまう、等といったことはなく、一日が終わって寮に帰ると、風呂に入った後に少しテレビを観て眠ってしまう、という日常です。かと言って、疲れ切って寝入ってしまう、といった類いのもではなく、快い疲れとともに眠りにつくといった感じのものです。僕はあまり寝起きが良くない方なのですが、この生活では、適度に体を動かし、十分に食事を摂り、ストレスもあまり感じない状態であるので、多分質の良い睡眠を摂れているのだと思います。結果、寝覚めは毎日とても良いです。もちろん、アルコールレスであることも大きな要因のひとつだと思います。ここで生活を始める直前は入院生活を送っていました。病院でも生活も規則正しくはあったのですが、やはり何かしらのストレスは感じていたのか、現在と比べると眠りの深さが違っていたように思われます。

ここでの生活は、色々なことを体験させてもらえます。多分僕が以前過ごしていたような生活の中では経験し得なかった様なことを、日々行っているのだと思います。もちろん、その全てに関してウェルカム状態というわけではなく、事柄によってはあまり得意な分野とは言えず、出来れば敬遠したいと思うようなものもありはしますが。とにかくやってみようという気持ちで取り組むようにはしています。やってみると意外と…、みたいなこともあったりして、それなりに楽しんで生活を送れているのではないかと、思ったりしています。

僕は自分の考えや意向などを言葉というカタチにして発するという行為を何となく苦手としていて、意見を発表することにあまり積極的に向き合って来なかったのですが、ここでは毎日何かしらの意見や感想を述べる機会があり、少し苦勞を感じますが、それも慣れたと思って考えて言葉にしています。今ではこの作業に少し慣れてきたのか、最初の頃よりはスムーズにギアが入るようになったと感じています。これは自分にとってとても有用な変化だと感じています。多分。これに限らず、色んな面でそういったことと同類の効果があるのではないだろうか、と考えています。意識する、しないに関わらず。

こうした日々を送ることによって、これまで書いてきた様な変化が顕われ、心身共に健全な方向へと移れていけているのではないかと考えています。1～2ヶ月で、そうそう変わるものではないでしょうが、少しでも変化に気づき、それが良好なものであると感じられれば、それを大切にして日々を過ごしていきたいと思います。

メッセージを受け取りに

ニッシン

アディクトのニッシンです。神戸ダルクに戻ってきて早4ヶ月が過ぎようとしています。リプラスして、しばらく施設でのプログラムを受けてゆっくりとリカバリーしていこうかと思っていました。が、元スタッフだったこともあり、ハイヤーパワーはそうはさせてくれないようです。今までの経験を仲間に手渡ししたりしています。

そんな僕ですが、ダルクの日々を過ごしていて気になることがありました。3Fをあがる階段の脇に飾ってある亡くなった仲間の写真の1枚でした。掃除や用事で3Fへむかうときに、その1枚の仲間の写真が僕に語りかけてくれるようでした。「いいぞ！頑張れ！」と。その仲間の写真が、三河ダルクのマツさんでした。笑顔で優しく語りかけてくれそうな写真は、リプラスして再びプログラムをやりなおす自分に元気を与えてくれました。そのマツさんのお別れ会があり、ウメさんが行くと聞いて気になっていました。



韓国へ行く誘いがあり、自分はマツさんのお別れ会に参加するため韓国へとむかいました。ダルクで3度目の韓国、どんな旅になるのかワクワクしました。ウメさんと2人で神戸空港近くのベイシヤトルから関空に行き韓国へ。ソウルの中心部へバスでむかいました。どしゃぶりの雨でずぶ濡れになりながらホテルへむかいます。旅の醍醐味は飯。一日目はサムギョプサル。ウメさんとダルクのことや仲間のこと、回復について話しながら過ごしました。二日目、お別れ会当日。韓国の仲間、日本の仲間も多く参加していました。弔辞を聞いて自分が感じたのはマツさんは仲間を愛し愛された人だったということ。仲間と苦しんでいる仲間がいる韓国へ回復のメッセージを届けるためダルクを韓国に作ったということ。苦しんでいるアディクトがいたらどこへでもむかう。メッセージを届けるため。自分は話を聞いて、そのことを強く感じました。三日目、美術館めぐり、四日目帰路とウメさんと濃密な時間を過ごすことが出来ました。

自分が韓国に行って感じたのは、メッセージを届けるために自分にできることをやる。あわてずじっくり。と言うこと。メッセージを受け取った自分は、ダルクや社会に出ても自分のできる範囲でメッセージを届けたいなと思いました。



活動報告

4 月

新自立準備ホームスタート&引越し(灘区)
新カウンセリングルームスタート&引越し(加古川)
人と防災未来センター見学
POSC 神戸兵庫県遊技業協会授賞式
キューピー神戸工場見学
子ども食堂フードバンク備蓄米寄付引取り
ラーニングデイズ会場下見(静岡県三ヶ日)
神戸ひかりライオンズクラブ設立チャーターナイト参加

5 月

トラウマインフォームドケア学習会打ち合わせ
ジョンソン&ジョンソンキックオフミーティング東京参加
POSC 助成授与式東京
韓国ソウルにてマツさんお別れ会参加
TOTTEI 散策
みなとのもり野外ミーティング
播磨社会復帰促進センター薬物離脱指導
RSC 座談会参加
子ども食堂むすびえ総会参加
森林セラピーブラッシュアップ研修

6 月

フードバンク寄付引取
播磨社会復帰促進センター薬物離脱指導
SGL スタジアム見学
子ども食堂食品衛生研修参加
兵庫県地域生活定着支援センター来訪
NA RSC 参加

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日
ヨーガプログラム 毎月2回
明石依存症相談 毎月1回
子ども食堂 毎月第2、第4土曜日



近況報告・活動予定

最近の神戸ダルクは、皆が精力的に回復を考え、未熟ながらも前向きな声をかけ合いながらのやりとりを見ていると、ガミガミいうのを抑えてしまう僕がいます。

ダルクの回復というのは塊で回復することが多いです。というのも年表みたいなもので例えると、一人だけ助かった。というようなことは珍しく、いくつかの塊で助かっていきます。つまり、助け合う歯車が噛み合った連中が、全員生き残る時期がある。ということです。

みんながこの夏を楽しむことにワクワクしています。キャンプ用品の準備はいいか？釣りの道具の手入れはしてるか？夏の暑い畑の対策は？などなど私がいつも注意して伝えていたことが、仲間たちで話し合えるようになっていきます。ダルクラしいダルクの日々があります。全員で優勝しましょう。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッション」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただけた場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容についての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

千葉菜の花家族会 富井建夫 様 ヨシクラ ミカコ 様 衆議院議員 櫻井 周 様 林谷 みどり 様
中島 展也 様 ハシモ トナルトシ 様 間 明子様 松島 弘子 様 神戸女学院大学 金田 知子 様
金井 妙子 様 和田 長平 様 灘山 将之 様 横田 尤孝 様 (その他匿名希望 1 名)
(令和 7 年 3 月 9 日～令和 7 年 5 月 31 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

冒頭にも書きましたが、女性ハウスを姫路で活動スタートいたしました。広い居住空間を与えられましたが、日々の食生活で刑務所から出てきた女性たちに美味しいものを食べてもらいたいという思いに心痛くなります。おいしいものを食べるというのは回復の第一歩なのです。皆様お願いします。彼女たちが、美味しいものを食べて生きていることに感謝できるようにご支援をお願いします。また、ご家庭で余っている食料品（米、野菜、乾物、味噌、醤油など）から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。洗剤などもたくさんいただいたので非常に助かっています。今非常に助かるのは、食材や日用品です。心苦しいですが、ご協力をよろしく願いいたします。また、ボランティア活動も気軽にお声掛けください。私たちは体力だけではありませんので、荷物運搬など気軽にお声掛けください。日々の感謝をそのようなことで返したいと思っています。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

自分のメンテナンスということについてストイックに過ごしています。これが続いている理由は、メンテナンスをしていることで体の軽やかだし、気持ちも晴れやかな日々が多い。感覚で言うと若返った感覚。病は気からと言いますが、それを体感しています。私たち薬物依存症者は「あたり」というものを追い求めます。よくなった感覚がよくわかったとポジティブになれます。薬を使わなくても同じように。
夏ですね。夏を楽しみましょう。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.49
編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規
印刷 プリントバック
〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18
TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741
e-mail kobe.darc@gmail.com
www.kobedarc.org
価格 1部 100円 年会費 3000円
(購読料は年会費に入ります)
発行人 関西障害者定期刊行物協会
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階